

マンモグラフィとは？ (検査説明書)

マンモグラフィは、肺や胃のX線検査と同じで乳房にX線をあて、そのX線の吸収の差をフィルムに写しだすものです。しかし、乳房は全体が柔らかい組織で吸収差が少なく、良い写真を撮るためには専用の撮影装置やフィルムを使用します。マンモグラフィでは、他の検査ではむずかしい小さな癌を描出することもできます。また、今回撮った写真を以前のものと比較することによって乳房組織の微妙な変化がわかります。

乳房を片方ずつフィルムを入れた台と透明なプラスチックの板で上下や斜めなどからはさんで撮影します。(圧迫といいます。)

マンモグラフィでは乳房をはさんで平らに圧迫して撮影します。これはX線で乳房組織をより良く見えるようにするためです。また、圧迫することによって、被ばく線量が少なくなり、動きによるボケも防止できます。圧迫の際には多少の痛みを感じることがありますが、痛みの感じ方は人によって異なります。リラックスすることによって痛みは緩和されることもあります。

被ばくは、一回の撮影で、東京からニューヨークへ飛行機で行くときに浴びる自然放射線(宇宙線)量とほぼ同じ量ですのでほとんど危険はありません。

ベリタス病院 放射線科 072-793-7890